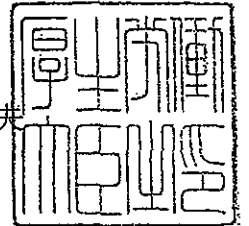


厚生労働省発食安第1108001号
平成 1 8 年 1 1 月 8 日

薬事・食品衛生審議会
会長 井村 伸正 殿

厚生労働大臣 柳澤 伯夫



諮 問 書

食品衛生法（昭和22年法律第233号）第11条第1項の規定に基づき、下記の事項について、貴会の意見を求めます。

記

次に掲げる農薬の食品中の残留基準設定について

クロチアニジン

平成19年1月17日

薬事・食品衛生審議会
食品衛生分科会長 吉倉 廣 殿

薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会
農薬・動物用医薬品部会長 井上 達

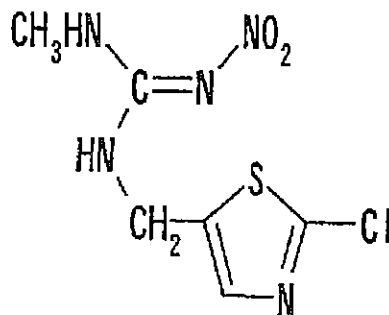
薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会
農薬・動物用医薬品部会報告について

平成18年11月8日厚生労働省発食安第1108001号をもって諮問された、食品衛生法（昭和22年法律第233号）第11条第1項の規定に基づくクロチアニジンに係る食品規格（食品中の農薬の残留基準）の設定について、当部会で審議を行った結果を別添のとおり取りまとめたので、これを報告する。

(別添)

クロチアニジン

1. 品目名：クロチアニジン (clothianidin)
2. 用途：殺虫剤
ネオニコチノイド系殺虫剤である。作用機序は、主にニコチン性アセチルコリン受容体アゴニスト作用によるものと考えられる。
3. 化学名：(E)-1-(2-クロロ-1,3-チアゾール-5-イルメチル)-3-メチル-2-ニトログアニジン
4. 構造式及び物性



分子式	C ₆ H ₈ ClN ₅ O ₂ S
分子量	249.68
水溶解度	0.327 g/L (20°C)
分配係数	logPow = 0.7 (25°C)

(メーカー提出資料より)

5. 適用病害虫の範囲及び使用方法

本薬の適用病害虫の範囲及び使用方法是以下のとおり。

なお、作物名となっているものについては今回適用拡大申請がなされたものを示している。

(1) 16.0%クロチアニジン水溶剤

作物名	適用病害虫名	希釈倍率	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロチアニジンを含む農薬の総使用回数
稲	ウカ類 ツマグロヨコバイ カメシ類 イトヨトビ	4000倍	60～150 L/10a	収穫14日前まで	3回以内	散布	4回以内 (育苗箱散布は1回以内、 本田では3回以内)
	ウカ類 カメシ類 イトヨトビ	1000倍	25L/10a				
稲 (箱育苗)	ウカ類 ツマグロヨコバイ アオヒコバ	200倍	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5L) 1箱当たり 500mL	移植3日前～ 移植当日	1回	育苗箱の上から均一に散布する	
	イトヨトビ イトスズリ	200～ 400倍					
れんこん	ウカ類			収穫7日前まで			3回以内
きゅうり	シキイロアザミ アブラムシ類 コジラミ類	2000～ 4000倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	4回以内 (育苗期の株元処理及び定植時の土壌混和は合計1回以内、散布は3回以内)
	アスパラガス	アブラムシ類 シキイロアザミ					
すいか	アブラムシ類	4000倍					4回以内 (定植時の土壌混和は1回以内、散布は3回以内)
	シキイロアザミ ウカ類	2000倍					

(1) 16.0%クロチアニジン水溶剤 (つづき)

作物名	適用 病害虫名	希釈倍 率	使用液量	使用時期	本剤の 使用回 数	使用方 法	クロチアニジ ンを含む農薬 の総使用回数
メロン	アブラムシ類	4000 倍	100~300 L/10a	収穫前日まで	3 回以内	散布	4 回以内 (育苗期の株 元処理及び定 植時の土壌混 和は合計 1 回 以内、散布は 3 回以内)
	コジラミ類 シメキイロアザミヤ	2000 ~ 4000 倍					
	トマトハモグリバエ						
なす	シメキイロアザミヤ ハモグリバエ類	2000 倍					
	アブラムシ類 マメハモグリバエ コジラミ類	2000~ 4000 倍					
トマト ミニトマト	アブラムシ類 コジラミ類						
	ハモグリバエ類	2000 倍					
ピーマン	アブラムシ類	2000~ 4000 倍					
	コジラミ類	2000~ 4000 倍					
	シメキイロアザミヤ	2000 倍					
にら	シメキイロアザミヤ		収穫 3 日前まで	3 回以内		3 回以内	
ブロッコリー	アブラムシ類						
だいこん	アブラムシ類	2000~ 4000 倍	収穫 7 日前まで			3 回以内 (は種時の土壌 混和は 1 回以内、 は種後は 2 回以内)	
レタス	アブラムシ類	2000 ~ 4000 倍	収穫 3 日前まで	2 回以内	散布	3 回以内 (育苗期の株元 処理は 1 回以内、 散布は 2 回以内)	
	ハモグリバエ	2000 倍					
非結球レタス	アブラムシ類	2000 ~ 4000 倍				2 回以内	
	ハモグリバエ	2000 倍					

(1) 16.0%クロチアニジン水溶剤 (つづき)

作物名	適用 病害虫名	希釈倍 率	使用液量	使用時期	本剤の 使用回 数	使用方 法	クロチアニジ ンを含む農薬 の総使用回数
キャベツ	アブラムシ類	2000～ 4000倍	100～300 L/10a	収穫3日前まで	2回以内	散布	3回以内 (は種時の散 布、育苗期の株 元処理及び定 植時の土壤混 和は合計1回 以内、散布は2 回以内)
	アオムシ	2000倍					
ねぎ	ネギアザシマ ネギハモグリバエ	2000～ 4000倍			4回以内		4回以内
ばれいしょ	アブラムシ類	1000倍 4000倍	25L/10a	収穫7日前まで	3回以内		4回以内 (植付時の土壤 混和は1回以内、 植付後は3回以 内)
	テントウムシダマシ類	2000～ 4000倍	100～300 L/10a				
てんさい	テントウムシダマシ アオムシ カメムシ類	100～ 200倍	1L/ペーパー ポット1冊 (3L/m ²)	定植前	1回	苗床 灌注	1回
えだまめ	アブラムシ類	2000～ 4000倍	100～300 L/10a	収穫3日前まで	3回以内	散布	3回以内
	カメムシ類						
だいず	アブラムシ類 マメシクイガ	2000倍	100～300 L/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	3回以内
	アサヒヒメハムシ	2000～ 4000倍					
	カメムシ類	2000～ 4000倍					
りんご	カメムシ類	4000倍	200～700 L/10a	収穫前日まで			
	キンモンホリガ キンモンハモグリガ シクイムシ類 アブラムシ類 クロコナカイガラムシ リンゴワタムシ	2000～ 4000倍					

(1) 16.0%クロチアニジン水溶剤 (つづき)

作物名	適用 病害虫名	希釈倍 率	使用液量	使用時期	本剤の 使用回 数	使用方 法	クロチアニジ ンを含む農薬 の総使用回数
なし	シクイムシ類 アブラムシ類 クコカガラムシ カメムシ類	2000～ 4000倍	200～700 L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
もも	アブラムシ類 モハメグサリガ シクイムシ類 カメムシ類 コガネムシ類	2000倍		収穫7日前まで			
ネクタリン	アブラムシ類 モハメグサリガ シクイムシ類 カメムシ類 コガネムシ類	2000～ 4000倍		収穫3日前まで			
おうとう	オトウシヨウジヨウハエ カメムシ類	2000倍		収穫前日まで	2回以内		
うめ	ケムシ類 アブラムシ類	2000～ 4000倍		収穫7日前まで	3回以内		
ぶどう	コカガラムシ類 チャキイロアザミマ フタテンヒメヨコバイ			収穫14日前まで			
マンゴー	アザミマ類 コカガラムシ類			収穫7日前まで			
いちじく	アザミマ類			収穫3日前まで			
すもも あんず	アブラムシ類						
豆類 (種実、た だし、だい ず、らっか せいを除 く)	アブラムシ類	4000倍		100～300 L/10a	収穫7日前まで		

(1) 16.0%クロチアニジン水溶剤 (つづき)

作物名	適用 病害虫名	希釈倍 率	使用液量	使用時期	本剤の 使用回 数	使用方 法	クロチアニジ ンを含む農薬 の総使用回数
かんきつ (みかんを 除く)	アブラムシ類 シロハモグリガ アザミウマ類 ケシキイ類 コアオハムグリ ツノムシ コナカイラムシ類 ゴマダラカミキリ カメムシ類 アゲハ類 アカムカデ ミカンキンゾウ	2000～ 4000倍	200～700 L/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	3回以内
	ミカンハエ	2000倍					
かき	カキヒメヨコバイ	4000倍	2000～ 4000倍				
	チャノキイロアザミウマ カキグアザミウマ フジコナカイラムシ カキノハムシ カメムシ類						
茶	チャノキイロアザミウマ チャノミドリヒメヨコバイ チャノホソカ		200～400 L/10a	摘採7日前まで	1回		1回
	コミカンアブラムシ	4000倍					
にがうり	ミナミキイロアザミウマ	2000～ 4000倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	3回以内		3回以内

(1) 16.0%クロチアニジン水溶剤 (つづき)

作物名	適用 病害虫名	希釈倍 率	使用液量	使用時期	本剤の 使用回 数	使用方 法	クロチアニジ ンを含む農薬 の総使用回数
みかん	ミカンモグリガ	20倍	100mL/樹	収穫150日 前まで	1回	樹幹 散布	4回以内 (樹幹散布 は1回以内、 植付後は3回 以内)
	アブラムシ類 ミカンモグリガ アザミウマ類 ケキスイ類 コオホムグリ ツノウムシ コカケラムシ類 コマダラミキリ カメムシ類 アゲハ類 アカカケラムシ	2000～ 4000倍	200～700 L/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	
	ミカンキジラミ ミカンハエ	2000倍					
オクラ チンゲンサイ みずな	アブラムシ類	2000～ 4000倍	100～300 L/10a	収穫前日まで 収穫14日前まで 収穫7日前まで			3回以内

(2) 1.0%クロチアニジン1キロ粒剤

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方 法	クロチアニジ ンを含む農薬 の総使用回数
稲	ウカ類 ツマクモコバエ	1kg/10a	収穫14日前まで	3回以内	散布	4回以内 (但し本田 期は3回以 内)

(3) 0.50%クロチアニジン粒剤

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用時期	本剤の 使用回 数	使用方法	クロチアニジ ンを含む農薬 の総使用回数	
稲	ウカ類 ツマゲロコハバイ	3kg/10a	収穫 14 日前まで	3 回以内	散布	4 回以内 (育苗箱散布は 1 回以内、本田では 3 回以内)	
	カメシ類	3~4kg/10a					
稲 (箱育苗)	イネトオイトムシ イネスズムシ	育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壌約 5L) 1 箱当り 50g	移植 3 日前~ 移植当日	1 回	育苗箱の 苗の上か ら均一に 散布する	4 回以内 (育苗期の株元 処理及び定植時 の土壌混和は合 計 1 回以内、散布 は 3 回以内)	
きゅうり	コジラミ類 アブラムシ類	1g/株	育苗期後半		株元処理		
	コジラミ類 アブラムシ類	1~2g/株	定植時		植穴処理 土壌混和		
	ミナキイロザミウマ	2g/株					
	アブラムシ類 ミナキイロザミウマ	1~2g/株					
すいか	アブラムシ類 ミナキイロザミウマ	1~2g/株					4 回以内 (定植時の土壌 混和は 1 回以内、 散布は 3 回以内)
メロン	アブラムシ類 コジラミ類	1g/株	育苗期後半		株元処理		4 回以内 (育苗期の株元 処理及び定植時 の土壌混和は合 計 1 回以内、散布 は 3 回以内)
	アブラムシ類 ミナキイロザミウマ トマトハモグリバエ	1~2g/株	定植時		植穴処理 土壌混和		
	ミナキイロザミウマ	2g/株					
	アブラムシ類 アブラムシ類 マハモグリバエ コジラミ類	1g/株					
なす	アブラムシ類 アブラムシ類 マハモグリバエ コジラミ類	1g/株		育苗期後半		株元処理	
トマト ミニトマト	アブラムシ類 コジラミ類	1~2g/株	鉢上時	植穴処理 土壌混和	4 回以内 (鉢上時の株元処 理及び定植時の 土壌混和は合計 1 回以内、散布は 3 回以内)		
	アブラムシ類 マハモグリバエ		定植時	株元処理			
	トマトハモグリバエ					2g/株	
	トマトハモグリバエ		2g/株				

(3) 0.50%クロチアニジン粒剤 (つづき)

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用時期	本剤の 使用回 数	使用方法	クロチアニジ ンを含む農薬 の総使用回数
<u>いちご</u>	アブラムシ類	1g/株	定植時	1回	植穴処理 土壌混和	1回
だいこん		3~6kg/10a	は種時		播溝処理 土壌混和	3回以内 (は種時の土壌 混和は1回以内、 は種後は2回以 内)
レタス		0.5g/株	育苗期後半		株元処理	3回以内 (育苗期の株元 処理は1回以内、 散布は2回以内)
ねぎ <u>わけぎ</u> <u>あさつき</u>	ネギアザシマ ネギハモグリバエ	3~6kg/10a	収穫3日前まで	4回以内	株元散布	4回以内
キャベツ	<u>アブラムシ類</u> <u>ハマダラカメイト</u>	0.25g/株	は種時	1回	覆土後セル 成育苗トレ イの上から 散布する	<u>3回以内</u> (は種時の散布、 <u>育苗期の株元処 理及び定植時の</u> <u>土壌混和は合計1</u> <u>回以内、散布は2</u> <u>回以内</u>)
	<u>ネリムシ類</u> コガ アオムシ <u>アブラムシ類</u>	0.5g/株	育苗期後半		株元処理	
	<u>アブラムシ類</u>	1g/株	定植時		植穴処理 土壌混和	
	コガ アオムシ	2g/株				
<u>れんこん</u>	クワイビレアブラムシ	6kg/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	3回以内
ぼれいしょ	アブラムシ類		植付時	1回	植溝処理 土壌混和	4回以内 (植付時の土壌 混和は1回以内、 植付後は3回以 内)
かんしょ	コガムシ類				作条処理 土壌混和	1回

(3) 0.50%クロチアニジン粒剤 (つづき)

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用時期	本剤の 使用回 数	使用方法	クロチアニジ ンを含む農薬 の総使用回数
ピーマン	アブラムシ類	1g/株	育苗期後半	1回	株元処理	3回以内 (育苗期の株元
			定植時		植穴処理 土壌混和	処理及び定植時 の土壌混和は合 計1回以内、散布 は2回以内)

(4) 0.15%クロチアニジン粒剤 DL

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用時期	本剤の 使用回 数	使用方法	クロチアニジ ンを含む農薬 の総使用回数
稲	ウカ類 ツマグロヨコバイ カメムシ類	3~4kg/10a	収穫14日前まで	3回以内	散布	4回以内 (育苗箱散布は1 回以内、本田では 3回以内)
	イナゴ類	4kg/10a				
	イネトヨイムシ フタホシコヤガ	3kg/10a				
だいず	アブラムシ類 カメムシ類	4kg/10a	収穫7日前まで			3回以内

(5) 1.5%クロチアニジン箱粒剤

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用時期	本剤の 使用回 数	使用方法	クロチアニジ ンを含む農薬 の総使用回数
稲 (箱育苗)	ウカ類 ツマグロヨコバイ イネミスズムシ イネトヨイムシ ニカメイトユウ フタホシコヤガ イネヒメハモグリバエ	育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壌約5L) 1箱当り50g	移植3日前~ 移植当日	1回	育苗箱の 上から均 一に散布 する。	4回以内 (育苗箱散布は1 回以内、本田では 3回以内)

(6) 0.50%クロチアニジンH粉剤DL

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用時期	本剤の 使用回 数	使用方法	クロチアニジ ンを含む農薬 の総使用回数
稲	カメシ類 ウカ類 ツマグロヨコバイ イコ類 イネトムシ ニカメイチュウ フタホシコキガ	3~4kg/10a	収穫14日前まで	3回以内	散布	4回以内 (育苗箱散布は1 回以内、本田では 3回以内)
	イネトヨコバイ	3kg/10a				
だいず	アブラムシ類 カメシ類 フタホシヒメムシ	3~4kg/10a	収穫7日前まで			3回以内

(7) 20.0%クロチアニジン水和剤(フロアブル)

作物名	適用 病害虫名	希釈倍率	使用液量	使用時期	本剤の 使用回 数	使用方 法	クロチアニジ ンを含む農薬 の総使用回数
稲	イコ類 ウカ類 ツマグロヨコバイ カメシ類	5000倍	60~150 L/10a	収穫14日前まで	3回以内	散布	4回以内 (育苗箱散布 は1回以内、 本田では3回 以内)
	ウカ類 ツマグロヨコバイ カメシ類	90倍	3L/10a			空中 散布	
	ウカ類 カメシ類	24倍	800mL/10a			無人ヘリ コプター による 散布	
だいず	アブラムシ類 カメシ類 マシクイガ	2500倍					3回以内
ばれいしょ	アブラムシ類	5000倍	100~300 L/10a	収穫7日前まで		散布	4回以内 (植付時の土壌 混和は1回以内、 植付後では3回 以内)

6. 作物残留試験結果

(1) 分析の概要

① 分析対象の化合物

- ・ クロチアニジン

② 分析法の概要

試料をアセトンで抽出し、CHEM ELUT™ カラム、Sep-Pak®アルミナ(N)及びシリカカートリッジで精製した後、高速液体クロマトグラフにより定量する。

検出限界 0.002~0.05ppm。

(2) 作物残留試験結果

① 稲

稲（玄米）を用いた作物残留試験(2例)において、2.5%箱粒剤を50g/箱（移植当日育苗施用）、及び16.0%水溶剤の4,000倍希釈液を計3回散布（150L/10a）したところ、散布後13^{註2)}~28日の最大残留量^{註1)}は0.134, 0.104 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

稲（玄米）を用いた作物残留試験(2例)において、2.5%箱粒剤を50g/箱（移植当日育苗施用）、及び1.0%1キロ粒剤を計3回散布（1kg/10a）したところ、散布後13^{註2)}~28日の最大残留量は<0.004, 0.026 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

稲（玄米）を用いた作物残留試験(2例)において、2.5%箱粒剤を50g/箱（移植当日育苗施用）、及び0.15%粉剤DLを計3回散布（4kg/10a）したところ、散布後13^{註2)}~28日の最大残留量は0.048, 0.023 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

稲（玄米）を用いた作物残留試験(2例)において、2.5%箱粒剤を50g/箱（移植当日育苗施用）、及び0.5%粒剤を計3回散布（4kg/10a）したところ、散布後14~22日の最大残留量は0.02, <0.01 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

稲（玄米）を用いた作物残留試験(2例)において、16.0%水溶剤の200倍希釈液を0.5L/箱及び2.5%箱粒剤を50g/箱（移植当日育苗施用）、並びに0.5%粉剤DLを計3回散布（4kg/10a）したところ、散布後14~28日の最大残留量は0.07, 0.09 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

稲（玄米）を用いた作物残留試験(2例)において、16.0%水溶剤の200倍希釈液を0.5L/箱及び2.5%箱粒剤を50g/箱（移植当日育苗施用）、並びに16.0%水溶剤の4,000倍希釈液を計3回散布（150L/10a）したところ、散布後14~28日の最大残留量は0.14, 0.12 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

稲（玄米）を用いた作物残留試験(2例)において、16.0%水溶剤の200倍希釈液を0.5L/箱及び2.5%箱粒剤を50g/箱（移植当日育苗施用）、並びに0.5%粒剤を計3回散布（4kg/10a）したところ、散布後14~28日の最大残留量は0.01, 0.02 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

稲（玄米）を用いた作物残留試験（2例）において、16.0%水溶剤の200倍希釈液を0.5L/箱及び2.5%箱粒剤を50g/箱（移植当日育苗施用）、並びに20.0%フロアブルの5,000倍希釈液を計3回散布（150L/10a）したところ、散布後14～28日の最大残留量は0.12, 0.13 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

稲（玄米）を用いた作物残留試験（3例）において、16.0%水溶剤の200倍希釈液を0.5L/箱及び2.5%箱粒剤を50g/箱（移植当日育苗施用）、並びに20.0%フロアブルの24倍希釈液を計3又は4回RCH散布（0.8L/10a）したところ、散布後14～28日の最大残留量は0.04, 0.16, 0.16 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

稲（稲わら）を用いた作物残留試験（2例）において、2.5%箱粒剤を50g/箱（移植当日育苗施用）、及び16.0%水溶剤の4,000倍希釈液を計3回散布（150 L/10a）したところ、散布後13^{註2)}～28日の最大残留量は0.11, 0.132 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

稲（稲わら）を用いた作物残留試験（2例）において、2.5%箱粒剤を50g/箱（移植当日育苗施用）、及び1.0%1キロ粒剤を計3回散布（1kg/10a）したところ、散布後13^{註2)}～28日の最大残留量は0.118, 0.176 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

稲（稲わら）を用いた作物残留試験（2例）において、2.5%箱粒剤を50g/箱（移植当日育苗施用）、及び0.15%粉剤DLを計3回散布（4kg/10a）したところ、散布後13^{註2)}～28日の最大残留量は0.12, 0.142 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

稲（稲わら）を用いた作物残留試験（2例）において、2.5%箱粒剤を50g/箱（移植当日育苗施用）、及び0.5%粒剤を計3回散布（4kg/10a）したところ、散布後14～22日の最大残留量は0.72, 0.26 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

稲（稲わら）を用いた作物残留試験（2例）において、16.0%水溶剤の200倍希釈液を0.5L/箱及び2.5%箱粒剤を50g/箱（移植当日育苗施用）、並びに0.5%粉剤DLを計3回散布（4kg/10a）したところ、散布後14～28日の最大残留量は0.28, 2.75 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

稲（稲わら）を用いた作物残留試験（2例）において、16.0%水溶剤の200倍希釈液を0.5L/箱及び2.5%箱粒剤を50g/箱（移植当日育苗施用）、並びに16.0%水溶剤の4,000倍希釈液を計3回散布（150L/10a）したところ、散布後14～28日の最大残留量は0.18, 0.78 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

稲（稲わら）を用いた作物残留試験（2例）において、16.0%水溶剤の200倍希釈液を0.5L/箱及び2.5%箱粒剤を50g/箱（移植当日育苗施用）、並びに0.5%粒剤を計3回散布（4kg/10a）したところ、散布後14～28日の最大残留量は0.17, 2.16 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

稲（稲わら）を用いた作物残留試験（2例）において、16.0%水溶剤の200倍希釈

液を 0.5L/箱及び 2.5%箱粒剤を 50g/箱（移植当日育苗施用）、並びに 20.0%フロアブルの 5,000 倍希釈液を計 3 回散布（150L/10a）したところ、散布後 14～28 日の最大残留量は 0.12, 1.02 ppm であった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

稲（稲わら）を用いた作物残留試験（3 例）において、16.0%水溶剤の 200 倍希釈液を 0.5L/箱及び 2.5%箱粒剤を 50g/箱（移植当日育苗施用）、並びに 20.0%フロアブルの 24 倍希釈液を計 3 又は 4 回 RCH 散布（0.8L/10a）したところ、散布後 14～28 日の最大残留量は 0.81, 2.57, 2.28 ppm であった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

②だいず

だいず（乾燥子実）を用いた作物残留試験（2 例）において、0.5%粒剤を 6 kg/10a（播種時播溝処理土壌混和）、及び 16.0%水溶剤の 2,000 倍希釈液を計 3 回散布（150, 200L/10a）したところ、散布後 7～21 日の最大残留量は 0.01, <0.01 ppm であった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

だいず（乾燥子実）を用いた作物残留試験（2 例）において、0.5%粒剤を 6 kg/10a（播種時播溝処理土壌混和）、及び 0.5%H 粉剤 DL を計 4 回又は 3 回散布（4 kg/10a）したところ、散布後 7～21 日の最大残留量は <0.01, <0.01^{注3)} ppm であった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

だいず（乾燥子実）を用いた作物残留試験（2 例）において、0.5%粒剤を 6 kg/10a（播種時播溝処理土壌混和）、及び 20.0%フロアブルの 2,500 倍希釈液を計 3 回散布（200, 250L/10a）したところ、散布後 7～21 日の最大残留量は <0.01, <0.01 ppm であった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

③ばれいしょ

ばれいしょ（塊茎）を用いた作物残留試験（2 例）において、0.5%粒剤を 6kg/10 a（播種前播種溝処理土壌混和）、及び 16.0%水溶剤の 2,000 倍希釈液を計 3 回散布（150L/10a）したところ、散布後 7～21 日の最大残留量は 0.002, 0.016 ppm であった。

ばれいしょ（塊茎）を用いた作物残留試験（2 例）において、0.5%粒剤を 6kg/10 a（植付時植溝処理土壌混和）、及び 20.0%フロアブルの 2,500 倍希釈液を計 3 回散布（200, 250L/10a）したところ、散布後 7～21 日の最大残留量は <0.01, 0.01 ppm であった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

ばれいしょ（塊茎）を用いた作物残留試験（2 例）において、0.5%粒剤を 6kg/10 a（植付時植溝処理土壌混和）、及び 16.0%水溶剤の 1,000 倍希釈液を計 3 回散布（25L/10a）したところ、散布後 7～21 日の最大残留量は 0.03, <0.01 ppm であった。

④かんしょ

かんしょ（塊根）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を9kg/10a、定植時作条処理土壌混和として1回用いたところ、散布後104～116日の最大残留量は<0.01, <0.01 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

⑤てんさい

てんさい（根部）を用いた作物残留試験（2例）において、16.0%水溶剤の100倍希釈液を計1回定植時苗床灌注（1L/冊）したところ、散布後160～175日の最大残留量は<0.01, <0.01 ppmであった。

てんさい（根部）を用いた作物残留試験（2例）において、20.0%フロアブルの原液を489mL/100,000ペレット種子（種子コーティング）、16.0%水溶剤の100倍希釈液を計1回定植時苗床灌注（1L/冊）及び2000倍希釈液を計3回散布（200,500L/10a）したところ、散布後14～30日の最大残留量は<0.01, 0.02 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

⑥だいこん

だいこん（根部）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を6kg/10a（播種前播種溝処理土壌混和）、及び16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計2回散布（150,200L/10a）したところ、散布後7～14日の最大残留量は0.016, 0.014 ppmであった。

だいこん（葉部）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を6kg/10a（播種前播種溝処理土壌混和）、及び16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計2回散布（150,200L/10a）したところ、散布後7～14日の最大残留量は0.84, 2.26 ppmであった。

だいこん（つまみ菜）を用いた作物残留試験（1例）において、0.5%粒剤を6kg/10a（播種前播種溝処理土壌混和）したところ、散布後10日の最大残留量は0.48 ppmであった。

だいこん（間引き菜）を用いた作物残留試験（1例）において、0.5%粒剤を6kg/10a（播種前播種溝処理土壌混和）したところ、散布後22日の最大残留量は0.14 ppmであった。

⑦キャベツ

キャベツ（葉球）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を2g/株（定植時植穴処理土壌混和）、及び16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計2回散布（200,300L/10a）したところ、散布後3～14日の最大残留量は0.18, 0.16 ppmであった。

⑧レタス

レタス（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を2g/株（定植時植穴処理土壌混和）、及び16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計2回散布（200, 300L/10a）したところ、散布後3～14日の最大残留量は0.58, 1.33 ppmであった。ただし、この試験は適用範囲内で行われていない。

⑨ねぎ

ねぎ（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を6kg/10a、定植時植溝処理土壌混和として1回、株元散布として4回散布したところ、散布後3～14日の最大残留量は0.05, 0.14 ppmであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

ねぎ（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を6kg/10a（播種前播種溝処理土壌混和）、及び16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計4回散布（200, 150L/10a）したところ、散布後3～14日の最大残留量は0.09, 0.13 ppmであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

⑩トマト

トマト（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を2g/株（定植時植穴処理土壌混和）、及び16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布（250L/10a）したところ、散布後1～7日の最大残留量は0.23, 0.12 ppmであった。

⑪ピーマン

ピーマン（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を2g/株（定植時植穴処理土壌混和）、及び16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計2回散布（200, 150～200L/10a）したところ、散布後1～7日の最大残留量は1.21, 1.02 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

⑫なす

なす（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を2g/株（定植時植穴処理土壌混和）、及び16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布（162.5～200, 200L/10a）したところ、散布後1～7日の最大残留量は0.290, 0.379 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

⑬きゅうり

きゅうり（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を2g/株（定植時植穴処理土壌混和）、及び16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布（300, 200L/10a）したところ、散布後1～7日の最大残留量は0.695, 0.224 ppmであった。

⑭メロン

メロン（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を2g/株（定植時植穴処理土壌混和）、及び16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布（250, 300L/10a）したところ、散布後1～7日の最大残留量は0.038, 0.012 ppmであった。

⑮すいか

すいか（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を2g/株（定植時植穴処理土壌混和）、及び16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布（250, 300L/10a）したところ、散布後1～7日の最大残留量は0.022, 0.011 ppmであった。

⑯温州みかん

温州みかん（果肉）を用いた作物残留試験（2例）において、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布（400L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は0.246, 0.086 ppmであった。

温州みかん（果皮）を用いた作物残留試験（2例）において、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布（400L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は3.24, 1.09 ppmであった。

温州みかん（果肉）を用いた作物残留試験（2例）において、16.0%水溶剤の20倍希釈液を1回樹幹散布（22.2, 13.3L/10a）及び2000倍希釈液を計3回散布（666, 800L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は0.02, 0.08 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

温州みかん（果皮）を用いた作物残留試験（2例）において、16.0%水溶剤の20倍希釈液を1回樹幹散布（22.2, 13.3L/10a）及び2000倍希釈液を計3回散布（666, 800L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は0.74, 2.96 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

⑰夏みかん

夏みかん（果肉）を用いた作物残留試験（2例）において、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布（500L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は0.023, 0.292 ppmであった。

夏みかん（果皮）を用いた作物残留試験（2例）において、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布（500L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は0.362, 2.18 ppmであった。

夏みかん（果実）^{注4)}を用いた作物残留試験（2例）において、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布（500L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は0.118, 0.726 ppmであった。

⑱すだち(果実)

すだち(果実)を用いた作物残留試験(1例)において、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布(500L/10a)したところ、散布後7~21日の最大残留量は0.297 ppmであった。

⑲かぼす(果実)

かぼす(果実)を用いた作物残留試験(1例)において、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布(500L/10a)したところ、散布後7~21日の最大残留量は0.204 ppmであった。

⑳りんご

りんご(果実)を用いた作物残留試験(2例)において、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布(500L/10a)したところ、散布後7~21日の最大残留量は0.155, 0.042 ppmであった。

りんご(果実)を用いた作物残留試験(2例)において、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布(350, 400L/10a)したところ、散布後1~7日の最大残留量は0.15, 0.06 ppmであった。

㉑なし

なし(果実)を用いた作物残留試験(2例)において、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布(300, 500L/10a)したところ、散布後1~14日の最大残留量は0.39, 0.18 ppmであった。

㉒もも

もも(果肉)を用いた作物残留試験(2例)において、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布(400L/10a)したところ、散布後7~21日の最大残留量は0.124, 0.084 ppmであった。

もも(果皮)を用いた作物残留試験(2例)において、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布(400L/10a)したところ、散布後7~21日の最大残留量は1.00, 2.04 ppmであった。

㉓うめ

うめ(果実)を用いた作物残留試験(2例)において、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布(700, 500~800L/10a)したところ、散布後7~28日の最大残留量は0.97, 1.12 ppmであった。なお、500~800L/10a散布された1例については、適用範囲内で試験が行われていない。

㉔おうとう

おうとう(果実)を用いた作物残留試験(2例)において、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計2回散布(625, 500L/10a)したところ、散布後1~14日の最大残留

量は 1.08, 1.96 ppm であった。

⑳ぶどう(果実)

ぶどう(果実)を用いた作物残留試験(2例)において、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布(300L/10a)したところ、散布後14~56日の最大残留量は0.506(大粒種), 1.43(小粒種) ppmであった。

㉑かき

かき(果実)を用いた作物残留試験(2例)において、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布(400, 500L/10a)したところ、散布後7~21日の最大残留量は0.11, 0.14 ppmであった。

㉒茶

茶(荒茶)を用いた作物残留試験(3例)において、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計1回散布(400L/10a)したところ、散布後7~21日の最大残留量は37.6, 2.42, 9.92 ppmであった。

茶(浸出液)を用いた作物残留試験(3例)において、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計1回散布(400L/10a)したところ、散布後7~21日の最大残留量は36.4, 2.27, 8.70 ppmであった。

㉓いちご

いちご(果実)を用いた作物残留試験(2例)において、0.5%粒剤を2g/株、定植時植穴処理土壌混和として1回用いたところ、混和後62~104日の最大残留量は0.22, 0.06 ppmであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

㉔あんず

あんず(果実)を用いた作物残留試験(2例)において、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布(556, 500L/10a)したところ、散布後3~14日の最大残留量は0.72, 1.06 ppmであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

㉕れんこん

れんこん(根)を用いた作物残留試験(2例)において、0.5%粒剤を12kg/10a定植時植穴処理土壌混和として1回、散布として計3回用いたところ、散布後7~21日の最大残留量は<0.01, <0.01 ppmであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

れんこん(根茎)を用いた作物残留試験(2例)において、0.5%粒剤を12kg/10a定植時植穴処理土壌混和として1回、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布(300, 200L/10a)したところ、散布後7~21日の最大残留量は<0.01, <0.01 ppm

であった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

⑳ **いんげんまめ**

いんげんまめ（乾燥子実）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を6kg/10a（播種時播溝処理土壌混和）、及び16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布（150, 244L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は0.01, 0.02 ppmであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

㉑ **あずき**

あずき（乾燥子実）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を6kg/10a（播種時播溝処理土壌混和）、及び16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布（300, 150L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は0.09, 0.03 ppmであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

㉒ **ブロッコリー**

ブロッコリー（花蕾）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を2g/株（定植時植穴処理土壌混和）、及び16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布（200L/10a）したところ、散布後3～21日の最大残留量は0.33, 0.07 ppmであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

㉓ **アスパラガス**

アスパラガス（若茎）を用いた作物残留試験（2例）において、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布（300 L/10a）したところ、散布後1～7日の最大残留量は0.10, 0.24 ppmであった。

㉔ **リーフレタス**

リーフレタス（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を2g/株（定植時植穴処理土壌混和）、及び16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計2回散布（200～230, 238 L/10a）したところ、散布後3～14日の最大残留量は7.96, 6.67 ppmであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

㉕ **サラダ菜**

サラダ菜（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を2g/株（定植時植穴処理土壌混和）、及び16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計2回散布（150～200, 195L/10a）したところ、散布後3～14日の最大残留量は9.99, 4.41 ppmであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

㉖ **えだまめ**

えだまめ（さや）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を6kg/10a（定植時植溝処理土壌混和）、及び16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布（200,

300L/10a) したところ、散布後 3~14 日の最大残留量は 0.69, 0.26 ppm であった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

③⑧ **にら**

にら（茎葉）を用いた作物残留試験（2 例）において、16.0%水溶剤の 2,000 倍希釈液を計 3 回散布（200L/10a）したところ、散布後 3~14 日の最大残留量は 6.18, 1.42 ppm であった。

③⑨ **ネクタリン**

ネクタリン（果実）を用いた作物残留試験（2 例）において、16.0%水溶剤の 2,000 倍希釈液を計 3 回散布（400, 500L/10a）したところ、散布後 3~14 日の最大残留量は 0.64, 0.58 ppm であった。

④⑩ **すもも**

すもも（果実）を用いた作物残留試験（2 例）において、16.0%水溶剤の 2,000 倍希釈液を計 3 回散布（500, 400L/10a）したところ、散布後 3~14 日の最大残留量は 0.10, 0.04 ppm であった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

④⑪ **ミニトマト**

ミニトマト（果実）を用いた作物残留試験（1 例）において、0.5%粒剤を 2g/株（定植時植溝処理土壌混和）、16.0%水溶剤の 2,000 倍希釈液を計 3 回散布（300~400L/10a）したところ、散布後 1~14 日の最大残留量は 0.66 ppm であった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

ミニトマト（果実）を用いた作物残留試験（1 例）において、0.5%粒剤を 2g/株（定植時植溝処理土壌混和）、16.0%水溶剤の 2,000 倍希釈液を計 3 回散布（300L/10a）したところ、散布後 1~14 日の最大残留量は 0.90 ppm であった。

④⑫ **にがうり**

にがうり（果実）を用いた作物残留試験（2 例）において、0.5%粒剤を 2g/株（定植時植溝処理土壌混和）、16.0%水溶剤の 2,000 倍希釈液を計 3 回散布（250, 180L/10a）したところ、散布後 1~7 日の最大残留量は 0.28, 0.16 ppm であった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

④⑬ **チンゲンサイ**

チンゲンサイ（茎葉）を用いた作物残留試験（2 例）において、0.5%粒剤を 2g/株（定植時植溝処理土壌混和）、16.0%水溶剤の 2,000 倍希釈液を計 3 回散布（200, 300L/10a）したところ、散布後 14 日の最大残留量は 0.16, 0.85 ppm であった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

④④ みずな

みずな（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を6kg/10a（播種時播溝処理土壌混和）、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布（40～150, 227.8L/10a）したところ、散布後7～14日の最大残留量は1.07, 2.46 ppmであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

④⑤ おくら

おくら（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を6kg/10a（播種時播溝処理土壌混和）、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布（200, 100～150L/10a）したところ、散布後1～7日の最大残留量は0.36, 0.30 ppmであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

④⑥ マンゴー

マンゴー（果実）を用いた作物残留試験（1例）において、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布（320L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は0.06 ppmであった。

マンゴー（果実）を用いた作物残留試験（1例）において、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布（320L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は0.06 ppmであった。

④⑦ いちじく

いちじく（果実）を用いた作物残留試験（1例）において、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布（400L/10a）したところ、散布後3～14日の最大残留量は0.27 ppmであった。

いちじく（果実）を用いた作物残留試験（1例）において、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布（200L/10a）したところ、散布後3～14日の最大残留量は0.07 ppmであった。

④⑧ あさつき

あさつき（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を6kg/10a、定植時植溝処理土壌混和として1回、株元散布として4回散布したところ、散布後3～14日の最大残留量は0.59, 0.96 ppmであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

④⑨ わけぎ

わけぎ（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を6kg/10a、定植時植溝処理土壌混和として1回、株元散布として4回散布したところ、散布後3～14日の最大残留量は0.13, 0.04 ppmであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

なお、これらの試験結果の概要については、別紙1を参照。

注1) 最大残留量：当該農薬の申請の範囲内で最も多量に用い、かつ最終使用から収穫までの期間を最短とした場合の作物残留試験（いわゆる最大使用条件下の作物残留試験）を実施し、それぞれの試験から得られた残留量。

（参考：平成10年8月7日付「残留農薬基準設定における暴露評価の精密化に関する意見具申」）

注2) 経過日数13日の試験については、本来最大使用条件下として定められた14日の試験成績の誤差範囲内とみなし、当該試験成績を暴露評価の対象としている。

注3) だいち（乾燥子実）の圃場Bにおける試験については、定められた適用回数を超えて試験がなされているが、処理直後の降雨による再処理の結果によるものであることから、暴露評価の対象としている。

注4) 夏みかんの果実については各試験区の果肉／果皮重量比を用いて算出している。

7. 乳汁への移行試験結果

乳牛2頭に対し、クロチアニジン14mg/頭/日を朝の搾乳直後に7日間連続して経口投与した。投与開始日、投与開始後1、3及び7日、最終投与後1、3及び5日に、搾乳機を用いて1日に2回搾乳し、同一日の試料を十分に攪拌し、分析試料としてクロチアニジン含量を測定したところ、いずれの試料においても、残留は検出されなかった。（検出限界0.01ppm）

8. ADIの評価

食品安全基本法（平成15年法律第48号）第24条第1項第1号の規定に基づき、平成17年10月4日付厚生労働省発食安第1004001号及び同法第24条第2項の規定に基づき、平成18年7月18日付厚生労働省発食安第0718028号により食品安全委員会あて意見を求めたクロチアニジンに係る食品健康影響評価について、以下のとおり評価されている。

無毒性量：9.7 mg/kg 体重/day

（動物種） ラット

（投与方法） 混餌投与

（試験の種類／期間）慢性毒性/発がん性併合試験/2年間

安全係数：100

ADI：0.097 mg/kg 体重/day

9. 諸外国における状況

コーデックス、米国、カナダ、欧州連合（EU）、オーストラリア及びニュージーランドについて調査した結果、米国及びカナダで、とうもろこし、なたね、乳等に基準値が設定されている。

10. 基準値案

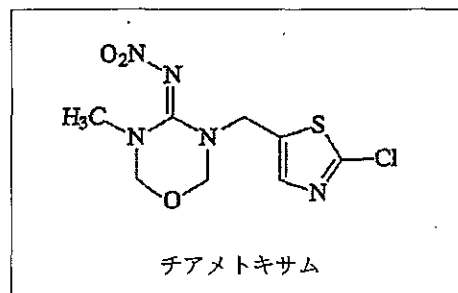
(1) 残留の規制対象

クロチアニジン

ただし、クロチアニジンは、同じく殺虫剤であり、農薬として登録・使用がなされているチアメトキサム（平成16年8月3日付厚生労働省発食安第0803001号及び平成18年7月18日付厚生労働省発食安第0718002号により、食品安全委員会に意見聴取中）の代謝物でもあり、チアメトキサムの使用によるクロチアニジンの残留が認めら

れている。基準値案は、クロチアニジン使用によるクロチアニジンの残留の他、チアメトキサム使用由来のクロチアニジンの残留も含め、設定した。

なお、米国等の基準にあつては、チアメトキサムの基準の対象として、チアメトキサムとチアメトキサム由来のクロチアニジンの和としているが、食品衛生法上はチアメトキサムの基準はチアメトキサムのみを対象とすることとし、クロチアニジンの基準値の対象を、クロチアニジンとチアメトキサム由来のクロチアニジンの和とする。



(2) 基準値案

別紙2のとおりである。

注) クロチアニジン使用によるクロチアニジンの作物残留試験成績と、チアメトキサム使用によるクロチアニジンの作物残留試験成績がある場合、双方共に同一作物に使用された場合の最大残留量を考慮して定めた。記載のある作物残留試験成績のうち、右側の欄に示した試験成績（チアメトキサム由来クロチアニジン作物残留試験成績）は、チアメトキサム使用によるクロチアニジンの残留値を示したものである。

(3) 暴露評価

各食品について基準値案の上限まで又は作物残留試験成績等のデータから推定される量のクロチアニジン使用によるクロチアニジン及びチアメトキサム使用によるクロチアニジンが残留していると仮定した場合、国民栄養調査結果に基づき試算される、1日当たり摂取する農薬の量（理論最大摂取量(TMDI)）のADIに対する比は、以下のとおりである。

なお、本暴露評価は、各食品分類において、加工・調理による残留農薬の増減が全くないとの仮定の下におこなった。詳細な暴露評価は別添3参照。

	推定摂取量／ADI (%) ^{注)}
国民平均	16.5
幼小児 (1～6歳)	31.7
妊婦	14.0
高齢者 (65歳以上)	16.7

注) TMDI 試算は、基準値案×摂取量の総和として計算している。

- (4) 本剤については、平成 17 年 11 月 29 日付け厚生労働省告示第 499 号により、食品一般の成分規格 7 に食品に残留する量の限度（暫定基準）が定められているが、今般、残留基準の見直しを行うことに伴い、暫定基準は削除される。
- (5) クロチアニジンの基準値については、本物質がチアメトキサムの代謝物でもあることから、現在食品安全委員会で行っているチアメトキサムの食品健康影響評価の結果を踏まえ、今後必要に応じ見直しの検討を行うものとする。

クロチアニジン作物残留試験一覧表

農作物	試験圃場数	試験条件				最大残留量 (ppm)
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	
稲 [※] (玄米)	2	2.5%箱粒剤+ 16.0%水溶剤	移植当日育苗施用 50g/箱 4,000倍散布 150L/10a	1+3回	14,21,28日 13,20,27日	圃場A:0.134(1+3回,21日)(#) 圃場B:0.104(1+3回,13日)(#)
稲 [※] (玄米)	2	2.5%箱粒剤+ 1.0%1キ口粒剤	移植当日育苗施用 50g/箱 +1kg/10a	1+3回	14,21,28日 13,20,27日	圃場A:<0.004(1+3回,14日)(#) 圃場B:0.026(1+3回,13日)(#)
稲 [※] (玄米)	2	2.5%箱粒剤+ 0.15%粒剤DL	移植当日育苗施用 50g/箱 +4kg/10a	1+3回	14,21,28日 13,20,27日	圃場A:0.048(1+3回,21日)(#) 圃場B:0.023(1+3回,13日)(#)
稲 [※] (玄米)	2	2.5%箱粒剤+ 0.5%粒剤	移植当日育苗施用 50g/箱 +4kg/10a	1+3回	14,22日 14,21日	圃場A:0.02(1+3回,14日)(#) 圃場B:<0.01(1+3回,14日)(#)
稲 [※] (玄米)	2	16.0%水溶剤+2.5%箱粒 剤+0.5%粉剤DL	移植当日育苗施用 200倍散布 0.5L/箱、 +50g/箱+4kg/10a	2+3回	14,21,28日	圃場A:0.07(2+3回,14日)(#) 圃場B:0.09(2+3回,14日)(#)
稲 [※] (玄米)	2	16.0%水溶剤+2.5%箱粒 剤+16.0%水溶剤	移植当日育苗施用 200倍散布 0.5L/箱 +50g/箱+4,000倍 150L/10a	2+3回	14,21,28日	圃場A:0.14(2+3回,14日)(#) 圃場B:0.12(2+3回,21日)(#)
稲 [※] (玄米)	2	16.0%水溶剤+2.5%箱粒 剤+0.5%粒剤	移植当日育苗施用 200倍散布 0.5L/箱 +50g/箱+4kg/10a	2+3回	14,21,28日	圃場A:0.01(2+3回,14日)(#) 圃場B:0.02(2+3回,21日)(#)
稲 [※] (玄米)	2	16.0%水溶剤+2.5%箱粒 剤+20.0%フロアブル	移植当日育苗施用 200倍散布 0.5L/箱 +50g/箱+5,000倍 150L/10a	2+3回	14,21,28日	圃場A:0.12(2+3回,21日)(#) 圃場B:0.13(2+3回,14日)(#)
稲 [※] (玄米)	3	16.0%水溶剤+2.5%箱粒 剤+20.0%フロアブル	移植当日育苗施用 200倍散布 0.5L/箱 +50g/箱+24倍 0.8L/10a RCH散布	2+3回 2+4回	14,21,28日 14,20,28日 14,21,28日	圃場A:0.04(2+3回,21日)(#) 圃場B:0.16(2+3回,14日)(#) 圃場C:0.17(2+4回,28日)(#)
稲 [※] (玄米)	2	16.0%水溶剤+2.5%箱粒 剤+16.0%水溶剤	移植当日育苗施用 200倍散布 0.5L/箱 +50g/箱+1,000倍 25L/10a	2+3回	14,21,28日	圃場A:0.10(2+3回,14日)(#) 圃場B:0.07(2+3回,14日)(#)
稲 (稲わら)	2	2.5%箱粒剤+ 16.0%水溶剤	移植当日育苗施用 50g/箱 4,000倍散布 150L/10a	1+3回	14,21,28日 13,20,27日	圃場A:0.11(1+3回,14日)(#) 圃場B:0.132(1+3回,13日)(#)
稲 (稲わら)	2	2.5%箱粒剤+ 1.0%1キ口粒剤	移植当日育苗施用 50g/箱 +1kg/10a	1+3回	14,21,28日 13,20,27日	圃場A:0.118(1+3回,14日)(#) 圃場B:0.176(1+3回,13日)(#)
稲 (稲わら)	2	2.5%箱粒剤+ 0.15%粒剤DL	移植当日育苗施用 50g/箱 +4kg/10a	1+3回	14,21,28日 13,20,27日	圃場A:0.12(1+3回,14日)(#) 圃場B:0.142(1+3回,13日)(#)
稲 (稲わら)	2	2.5%箱粒剤+ 0.5%粒剤	移植当日育苗施用 50g/箱 +4kg/10a	1+3回	14,22日 14,21日	圃場A:0.72(1+3回,14日)(#) 圃場B:0.26(1+3回,14日)(#)
稲 (稲わら)	2	16.0%水溶剤+2.5%箱粒 剤+0.5%粉剤DL	移植当日育苗施用 200倍散布 0.5L/箱、 +50g/箱+4kg/10a	2+3回	14,21,28日	圃場A:0.28(2+3回,14日)(#) 圃場B:2.75(2+3回,14日)(#)
稲 (稲わら)	2	16.0%水溶剤+2.5%箱粒 剤+16.0%水溶剤	移植当日育苗施用 200倍散布 0.5L/箱 +50g/箱+4,000倍 150L/10a	2+3回	14,21,28日	圃場A:0.18(2+3回,14日)(#) 圃場B:0.78(2+3回,21日)(#)
稲 (稲わら)	2	16.0%水溶剤+2.5%箱粒 剤+0.5%粒剤	移植当日育苗施用 200倍散布 0.5L/箱 +50g/箱+4kg/10a	2+3回	14,21,28日	圃場A:0.17(2+3回,14日)(#) 圃場B:2.16(2+3回,21日)(#)
稲 (稲わら)	2	16.0%水溶剤+2.5%箱粒 剤+20.0%フロアブル	移植当日育苗施用 200倍散布 0.5L/箱 +50g/箱+5,000倍 150L/10a	2+3回	14,21,28日	圃場A:0.12(2+3回,21日)(#) 圃場B:1.02(2+3回,14日)(#)
稲 (稲わら)	3	16.0%水溶剤+2.5%箱粒 剤+20.0%フロアブル	移植当日育苗施用 200倍散布 0.5L/箱 +50g/箱+24倍 0.8L/10a RCH散布	2+3回 2+4回	14,21,28日 14,20,28日 14,21,28日	圃場A:0.81(2+3回,21日)(#) 圃場B:2.57(2+3回,14日)(#) 圃場C:2.28(2+4回,14日)(#)
稲 (稲わら)	2	16.0%水溶剤+2.5%箱粒 剤+16.0%水溶剤	移植当日育苗施用 200倍散布 0.5L/箱、 +50g/箱+1,000倍 25L/10a	2+3回	14,21,28日	圃場A:1.07(2+3回,14日)(#) 圃場B:0.54(2+3回,14日)(#)
だいず [※] (乾燥子実)	2	0.5%粒剤+ 16.0%水溶剤	播種時播溝処理土壌混和 6kg/10a +2,000倍散布 150,200L/10a	1+3回	7,14,21日	圃場A:0.01(1+3回,7日)(#) 圃場B:<0.01(1+3回,7日)(#)
だいず [※] (乾燥子実)	2	0.5%粒剤+ 0.5%H粉剤DL	播種時播溝処理土壌混和 6kg/10a +4kg/10a	1+4回 1+3回	7,13,20日 7,14,21日	圃場A:<0.01(1+4回,7日)(#) 圃場B:<0.01(1+3回,7日)(#)(S)
だいず [※] (乾燥子実)	2	0.5%粒剤+ 20.0%フロアブル	播種時播溝処理土壌混和 6kg/10a +2500倍散布 200,250L/10a	1+3回	14,21日 7,14,21日	圃場A:<0.01(1+3回,14日)(#) 圃場B:<0.01(1+3回,7日)(#)
ばれいしょ (塊茎)	2	0.5%粒剤+ 16.0%水溶剤	播種前播溝処理土壌混和 6kg/10a 2,000倍散布 150L/10a	1+3回	7,14,21日	圃場A:0.002(1+3回,14日) 圃場B:0.016(1+3回,14日)
ばれいしょ (塊茎)	2	0.5%粒剤+ 20.0%フロアブル	植付時播溝処理土壌混和 6kg/10a 2,500倍散布 200,250L/10a	1+3回	7,14,21日	圃場A:<0.01(1+3回,7日)(#) 圃場B:0.01(1+3回,7日)(#)
ばれいしょ (塊茎)	2	0.5%粒剤+ 16.0%水溶剤	植付時播溝処理土壌混和 2g/株 1,000倍散布 25L/10a	1+3回	7,14,21日	圃場A:0.03(1+3回,14日) 圃場B:0.01
かんしょ (塊根)	2	0.5%粒剤	定植時作業処理土壌混和 9kg/10a	1回	116日 104日	圃場A:<0.01(1回,116日) 圃場B:<0.01(1回,104日)
てんさい (根部)	2	16.0%水溶剤	100倍 定植時苗床灌注 1L/冊	1回	160,167,174日 161,168,175日	圃場A:<0.01(1回,160日) 圃場B:<0.01(1回,161日)
てんさい (根部)	2	20.0%フロアブル+ 16.0%水溶剤	原液種子コーティング 489mL/1ユニット +100倍定植前苗床灌注 1L/冊 +2000倍散布 200,500L/10a	1+4回	14,21,30日 14,21,28日	圃場A:<0.01(1+4回,14日)(#) 圃場B:0.02(1+4回,14日)(#)

クロチアニジン作物残留試験一覧表

農作物	試験圃場数	試験条件				最大残留量 (ppm)
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	
だいこん (根部)	2	0.5%粒剤＋ 16.0%水溶剤	播種時播溝処理土壌混和 6kg/10a +2,000倍散布 150,200L/10a	1+2回	7,14日	圃場A:0.016(1+2回,14日) 圃場B:0.014
だいこん (葉部)	2	0.5%粒剤＋ 16.0%水溶剤	播種時播溝処理土壌混和 6kg/10a +2,000倍散布 150,200L/10a	1+2回	7,14日	圃場A:0.84 圃場B:2.26
だいこん (つまみ菜)	1	0.5%粒剤	播種時播溝処理土壌混和 6kg/10a	1回	10日	圃場A:0.48
だいこん (間引き菜)	1	0.5%粒剤	播種時播溝処理土壌混和 6kg/10a	1回	22日	圃場A:0.14
キャベツ [※] (葉球)	2	0.5%粒剤＋ 16.0%水溶剤	定植時植穴処理土壌混和 2g/株 +2,000倍散布 200,300L/10a	1+2回	3,7,14日 3,7,13日	圃場A:0.18 圃場B:0.16
レタス [※] (茎葉)	2	0.5%粒剤＋ 16.0%水溶剤	定植時植穴処理土壌混和 2g/株 +2,000倍散布 200,300L/10a	1+2回	3,7,14日	圃場A:0.58(1+2回,3日)(#) 圃場B:1.33(1+2回,3日)(#)
ねぎ [※] (茎葉)	2	0.5%粒剤	定植時播溝処理土壌混和 6kg/10a +4回株元散布	1+4回	3,7,14日	圃場A:0.05(1+4回,7日)(#) 圃場B:0.14(1+4回,3日)(#)
ねぎ (茎葉)	2	0.5%粒剤＋ 16.0%水溶剤	定植時播溝処理土壌混和 6kg/10a 2,000倍散布 200,150L/10a	1+4回	3,7,14日	圃場A:0.09(1+4回,3日)(#) 圃場B:0.13(1+4回,3日)(#)
トマト [※] (果実)	2	0.5%粒剤＋ 16.0%水溶剤	定植時植穴処理土壌混和 2g/株 +2,000倍散布 250L/10a	1+3回	1,3,7日	圃場A:0.226(1+3回,7日) 圃場B:0.120
ピーマン (果実)	2	0.5%粒剤＋ 16.0%水溶剤	定植時植穴処理土壌混和 2g/株 +2,000倍散布 200,150-200L/10a	1+2回	1,3,7日	圃場A:1.21(1+2回,1日)(#) 圃場B:1.02(1+2回,1日)(#)
なす [※] (果実)	2	0.5%粒剤＋ 16.0%水溶剤	定植時植穴処理土壌混和 2g/株 +2,000倍散布 162.5-200,200L/10a	1+3回	1,3,7日	圃場A:0.290(1+3回,3日)(#) 圃場B:0.379(1+3回,1日)(#)
きゅうり [※] (果実)	2	0.5%粒剤＋ 16.0%水溶剤	定植時植穴処理土壌混和 2g/株 +2,000倍散布 300,200L/10a	1+3回	1,3,7日	圃場A:0.695 圃場B:0.224
メロン [※] (果実)	2	0.5%粒剤＋ 16.0%水溶剤	定植時植穴処理土壌混和 2g/株 +2,000倍散布 250,300L/10a	1+3回	1,3,7日	圃場A:0.038(1+3回,3日) 圃場B:0.012(1+3回,3日)
すいか [※] (果実)	2	0.5%粒剤＋ 16.0%水溶剤	定植時植穴処理土壌混和 2g/株 +2,000倍散布 250,300L/10a	1+3回	1,3,7日	圃場A:0.022 圃場B:0.011(1+3回,7日)
温州みかん [※] (果肉)	2	16.0%水溶剤	2,000倍散布 400L/10a	3回	7,14,21日	圃場A:0.246 圃場B:0.086(3回,14日)
温州みかん [※] (果肉)	2	16.0%水溶剤	20倍樹幹散布 22.2, 13.3L/10a 2,000倍散布 666,800L/10a	1+3回	7,14,21日	圃場A:0.02(1+3回,7日)(#) 圃場B:0.08(1+3回,21日)(#)
温州みかん [※] (果皮)	2	16.0%水溶剤	2,000倍散布 400L/10a	3回	7,14,21日	圃場A:3.24 圃場B:1.09(3回,14日)
温州みかん [※] (果皮)	2	16.0%水溶剤	20倍樹幹散布 22.2, 13.3L/10a 2,000倍散布 666,800L/10a	1+3回	7,14,21日	圃場A:0.74(1+3回,7日)(#) 圃場B:2.96(1+3回,14日)(#)
夏みかん [※] (果肉)	2	16.0%水溶剤	2,000倍散布 500L/10a	3回	7,14,21日	圃場A:0.023(3回,21日) 圃場B:0.292(3回,14日)
夏みかん [※] (果皮)	2	16.0%水溶剤	2,000倍散布 500L/10a	3回	7,14,21日	圃場A:0.362(3回,21日) 圃場B:2.18(3回,14日)
夏みかん ^{※*} (果実)	2	16.0%水溶剤	2,000倍散布 500L/10a	3回	7,14,21日	圃場A:0.118(3回,21日) 圃場B:0.726(3回,14日)
すだち (果実)	1	16.0%水溶剤	2,000倍散布 500L/10a	3回	7,14,21日	圃場A:0.297
かぼす (果実)	1	16.0%水溶剤	2,000倍散布 500L/10a	3回	7,14,21日	圃場A:0.204
りんご (果実)	2	16.0%水溶剤	2,000倍散布 500L/10a	3回	7,14,21日	圃場A:0.155 圃場B:0.042
りんご (果実)	2	16.0%水溶剤	2,000倍散布 350,400L/10a	3回	1,3,7日	圃場A:0.15 圃場B:0.06
なし (果実)	2	16.0%水溶剤	2,000倍散布 300,500L/10a	3回	1,6,13日 1,7,14日	圃場A:0.39 圃場B:0.18
もも [※] (果肉)	2	16.0%水溶剤	2,000倍散布 400L/10a	3回	7,14,21日	圃場A:0.124 圃場B:0.084(3回,14日)
もも (果皮)	2	16.0%水溶剤	2,000倍散布 400L/10a	3回	7,14,21日	圃場A:1.00 圃場B:2.04
うめ (果実)	2	16.0%水溶剤	2,000倍散布 700,500-800L/10a	3回	7,14,21,28日	圃場A:0.97 圃場B:1.12(#)
おうとう (果実)	2	16.0%水溶剤	2,000倍散布 625,500L/10a	2回	1,3,7,14日	圃場A:1.08 圃場B:1.96
ぶどう [※] (果実)	2	16.0%水溶剤	2,000倍散布 300L/10a	3回	14,28,42,56日	圃場A:0.506 圃場B:1.43(3回,28日)